

なめがわ



行川公民館前の案内看板が古くなっていたため、この度案内板を新しく作り直しました。盤面を少し大きくして縦に取り付けたので、以前より見やすくなったのではないかと思います。ぜひ皆さん、新しくなった看板で地区内を散策してみたいはいかがでしょうか！



○主な内容

- ・コミュニティの取り組み紹介
ホタルの保全の取り組み 2
- 健康講座・にぎわい市 3
- ・地域コミュニティ推進課から 4
- ・地域の活動団体から 5
- ・小学校から、中学校から 6~7
- ・行川歴史発見 8
- ・行川大好き(7) 8



行川コミュニティ計画推進 市民会議

代表 片岡 巖

地域の皆様にはご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

私たちのコミュニティ活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

今日、中山間地域は、若い人たちが徐々に減って、『限界集落』という言葉が出るようになりました。行川地域でも、お年寄りの姿が目立つようになって来ています。

私たちの活動も、お年寄りが健康で楽しく、生きがいがあるようにしていかなければと思っています。

いつまでも行川地区の良さを保ち、行川は素晴らしい故郷だと、みな誇れるように、私たちの活動もその一端を担っていきたくと思っています。

みなさんのご参加を
お待ちしております！



行川コミュニティ計画推進市民会議では、会員を募集しています。私たちと一緒に行川のまちづくりを考えてみませんか。

詳しいことは下記までお問い合わせください。

- 行川コミュニティ計画推進市民会議
- 代表 片岡 巖 (Tel.843-9156)
- 事務局長 岡林 範雄 (Tel.843-9239)

行川コミュニティの取組み①

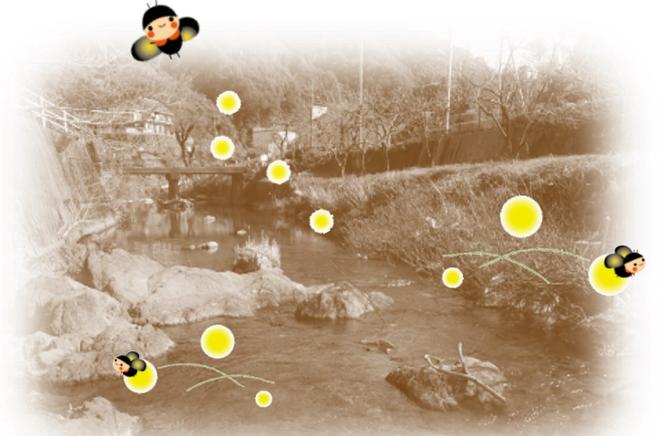
ホタルの飛び交う 行川を目指して

昔のように「ホタルの飛び交う行川」を目指し、ホタルの生態調査などの保全活動に取り組み始めています。

今年は、行川小中学校でも、ホタルについての総合学習に取り組みましたとお聞きしています。

ふだんの生活の中でも、ホタルの住みやすい環境を守るために、私たち住民にできることがあるのではないかと考え、ホタルにまつわるお話を紹介させていただきます。

ぜひできることから少しずつでもホタルの住みやすい環境を守るため、皆様のご協力をお願いいたします。



ホタルの話、今昔

昭和25年頃の話かな？ 今のように農機具がある訳でもなく、田んぼを耕すのは牛が主役で、どこの家でも牛を飼っていた。牛に鞍をつけ牛鍬(うしぐわ)を引かせて耕し起こすと、今度は馬鍬(うまぐわ)という、鉄でできた又鍬(またぐわ)の歯を横に連ねたようなものを牛に引かせて、すき起こした土を崩し、最後は人の手で柄振(えぶり)で田をならした。

牛はやったもので、田んぼに行けば仕事をし、帰るときは道をちゃんと覚えていて、手綱を引かなくても人の前をさっさと歩いて帰った。牛と家に帰る頃には、周囲は薄暗くなっていた。川べりや田んぼのあちこちでホタルが光った。暗い道でもホタルの灯りでその道が照らし出されるくらいホタルが多かったのだ。ちょっと大げさかもしれないが、当時はそのくらいにホタルが多かったのだ。

今は、農業のせいかホタルが少なくなった。それでも気をつけて見るとホタルはいる。

特に行川校の下、豊作田橋から行川校の間、領家の田淵田周辺には多少いるのだが、ホタルはだいたい日暮れから夜に飛ぶ。今は車でライトをつけて走るため、それではホタルを見ることはできない。

ホタルを見るなら、車を止めてライトを消して見てみよう。ハザードランプを点灯させていると、もしかしたら寄ってくるかも？

確かに昔のようにホタルはいない。だからこそ、今、ホタルの飛び交う行川を目指して3年前から行川コミュニティ計画推進市民会議でも取組みをはじめ、カワニナの増殖にも取り組んでいる。

将来、ホタルの多い行川が誕生する日を待つ。

(川崎 重幸)

ホタルと聞くと…

子どものころの夏の夜の様子を思い出す。

ナタネを取った後の茎を束ね、麦わらで編んだカゴを持ち、外に出ると(当時わらぶきの)ひさしの下、やまや(台所)の水槽あたりでホタルがどっさり飛んでいた。手に持った束を振り回すと、その中にくっついている。手早く捕まえて、部屋に張った蚊帳の中に飛ばす。暗闇の中であの独特の光の輝き—うれしく楽しかった。

時代と共に農業や自然環境の変化等の影響で、ホタルは減り、ほとんど飛ばなくなった。やはりこの山間の地にはホタルの飛び交う様を、と思い、3年くらい前から皆で取り組もうという話になった。二ナ貝、環境…取り組むべきことはたくさんあったが、少しずつ前に進めるべく努力を試みた。

昨年(平成26年)の夏、私は幾夜となく車でまわってみた。行川の学校周辺から領家…

あっ、いるいる…軽トラのハザードランプを点灯させ、しばらく見入っていた。

心わくわくして家に帰り、「だいぶおった」と報告。…やはりやったことは無駄じゃない。

今後も続けて、ホタルがどっさり飛ぶ夜がくるようガンバロー！！継続は力なり。

(川崎和恵)



行川小中学校の合同総合学習の時間に、子ども達が作成したホタルマップ♪

今年は、この地図を元に、ぜひホタルを探しに出かけよう!!

(合同総合学習については、7Pに紹介しています！)

行川コミュニティの取組み②

健康講座



住民の一人ひとりが健康を維持し、生きがいを持って生活している、安心安全なまちづくりの取組みの一環として、健康講座を開催しています。

ここ最近では、「慢性腎臓病について」「認知症を学び地域で支えよう」「高血圧ってどんな病気?」「熱中症とその予防」などをテーマに実施しています。

また、健康や病気の学習だけでなく、「南海地震に備える」といった内容でも学習会を開催しました。

今後も健康や、生活に必要なことをテーマとした学習会などを、定期的で開催していきたいと考えていますので、こんなテーマで学習の場を設けてほしい等、ご意見がありましたらコミュニティまでお寄せください。

多くの皆様のご参加をお待ちしています!!



行川コミュニティの取組み③

よこせと海辺のにぎわい市への出店

毎年5月に灘漁協で開催されている「よこせと海辺のにぎわい市」に、出店しています。生姜やキャベツ、レタス、白菜などの新鮮な野菜は毎年大人気で、売り切れが出るほど好評で、今では、行川の農産物を目当てに来場してくれる方もいるほどです。他の地区との交流や、来場者に行川を知ってもらい、興味を持ってもらう目的で参加を始めましたが、なんと第1回目から13年間、皆勤賞!!今では、行川コミュニティ計画推進市民会議でも、恒例行事となっています。

よこせと海辺のにぎわい市では、その日水揚げされた新鮮な魚を販売しているほか、マグロの解体実演販売などもありますので、海辺の地域との交流も兼ねて、ぜひ行川地区の皆さんも、一度遊びに来てみてください♪



～ タイムカプセルが、今年で10年目を迎えます ～

開封を心待ちにしている方も、きっと多いことでしょう。
住民みんなで埋めたタイムカプセルが、今年で10年目を迎えました。
開封までやっと折り返し、あと10年!
みなさんどうかお忘れなく、どうぞ健やかに開封の日を迎えましょう♪



地域コミュニティ推進課からのお知らせ



高知市は地域コミュニティ再構築事業を推進しています。

近年、地域の住民同士がつながるための活動の継続に関して、不安を感じる地域が増えてきていることから、**地域が築き上げてきた、住民同士の助け合い・支え合いの活動が、より継続・発展していくためには**、どういうしくみにすれば良いかを、地域と行政とが一緒になって検討していきたいと、高知市では考えています。

地域コミュニティ推進課では、平成22年度からこうした『地域コミュニティ再構築事業』に取り組んでおり、地域の課題が多様化する中で、地域内での連携・協力によって地域課題の解決を目指していくためのしくみである「地域内連携協議会」の設立を提案しています。

行川地区でも、この「地域内連携協議会」について、各地域団体の代表者にお集まりいただき、協議を始めています。

ぜひこの取組みを知っていただき、地域のつながりや連携、まちづくりについて、関心をお寄せいただきたいと思います。

また、各地域団体の代表者と、行川コミュニティ計画推進市民会議の会員の皆さまを中心に、地域コミュニティに関するアンケート調査も予定しております。

今後とも、地域の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

『地域内連携協議会』って何？



『地域内連携協議会』は、地域内での連携・協力によって地域課題の解決を目指していくためのしくみで、高知市が各地域での設立を提案しているものです。



平成26年度 こどもファンド活動発表会 ベストピカッと賞 受賞！！

Food Treasure Hunter In Namegawa

～ 行川の『食』宝物探し！！～

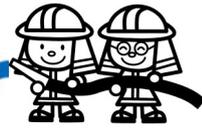
こうちこどもファンドは、子どもたちが自分たちの住むまちを、もっと良くしていくために行う活動を応援する制度です。平成26年度、行川中学校の子どもたちがこの制度を利用し、1年間「Food Treasure Hunter In Namegawa ～ 行川の『食』宝物探し！！～」という活動を行いました。

この活動は、子どもたちが通う行川地区のことをもっと知りたい、という思いから始まり、1年間行川地区に伝わる郷土料理や、特産物を使った料理などを、地域の方に教わり、その作り方や料理の写真を掲載した「レシピ集」を作成しました。また、田植えや稲刈り、料理を教えてもらった地域の方たちを中心に招き、メンバーの子どもたちが教えてもらった郷土料理を作って食べてもらう「おもてなしの会」も開催しました。

3月に行われた、こうちこどもファンド活動発表会で、そうした1年間の活動内容を子どもたちが発表したところ、行川中学校の生徒の取組が、活動の内容や進め方に工夫や面白さが感じられたグループに贈られる『ベストピカッと賞』に輝きました。



行川消防団



行川消防団の正式名は高知市消防朝倉分団行川部と言い、朝倉分団の一員です。

仕事は火事の消火活動はもちろんですが、台風や大雨の時などに消防局からの出動要請で、屯所に集合・待機・待機後の見回り等や行方不明者の捜査応援などがあります。また、裏方の仕事として、行川夏祭りでの打上花火の時には、打上花火の火の粉による火災の予防のために、行川川から水をくみ上げて山林や畑に水をまいたりしています。その他にも、行川小・中学校による避難訓練での応援などもしています。

12月31日には、地区の火の用心のために行川地区の巡回をして、年内の活動が終わります。

地区の皆さんの心がけにより、行川地区は火災が少なく、有難く思っています。

地域には多くの活動団体があり、それぞれが連携しながら地域のために活躍しています。

民生委員児童委員協議会



こんにちは!!民生委員
・児童委員です♪



行川地区には3人の委員がいます。

片岡巖さん（写真左：行川、針原地区担当）、森澤利喜さん（写真中央：領家、上里地区担当）、岡林多佳子さん（写真右：主任児童委員 朝倉地区担当）です。

私達、民生委員・児童委員は、地域の皆さんが毎日楽しく生活できるように、日々心がけて活動しています。

困った事、心配な事がありましたら、気軽に連絡してください。速やかに専門の機関（部署）に連絡して、皆さんが納得していただけるようにしていきたいと考えています。

私達の活動については、守秘義務が伴っていますので、ご相談の内容が外に漏れることはありません。私達の活動が地域の皆さんの一助となれば幸いです。

「はじめまして！」主任児童委員をさせて頂いています、岡林です。

民生委員の中で、特定の区域を担当せずに、子育て支援活動をサポートするのが、私たち主任児童委員です。誰かに話したいと思ったときには、どうぞ私を思い出してください！

私個人には何の力もありませんが、専門機関へのつなぎ役になります。

もちろんご相談のお秘密は守られます。子育ての先輩として、お気軽にご相談ください♪





小学校・中学校から

● 「避難訓練」 平成26年5月1日（木）

平成26年5月1日に、地震発生を想定して避難訓練を行いました。全校児童生徒・教職員が防災ヘルメットを着用した訓練でした。

緊急地震速報装置を使い、地震発生を知らせる校内放送が流れると、子どもたちは、素早く机にもぐり身を守る体勢をとっていました。

その後、学級担任の誘導により第1次避難場所である学校グラウンドで、全員の安否確認を行いました。

今回は、土砂崩れを想定して、第2次避難所の子ども教室（旧保育園）グラウンドまでさらに移動を行いました。移動には中学生が小学生の手を引いて、声をかけながら避難をすることができました。

避難訓練は自分たちの命を守るため、いざというとき慌てず冷静に行動するために大切な訓練です。しかし、災害はいつ、どこで起こるのかわかりません。通学途中、夜間、土日などの避難や対応についても、今後防災学習をしていく予定です。ご家庭でも避難先や連絡方法等についての話し合いを是非お願いします。



● 「合同防災訓練（防災学習・消火訓練・炊き出し）」 平成26年10月5日（日）

前年の防災訓練に続き、学校運営協議会、行川コミュニティ、消防団、地域が一体となり合同防災訓練を実施しました。当日は天候が悪くグラウンドでの炊き出しができず、急遽調理室でのカレー作りとなりましたが、参加者全員で貴重な体験をすることができました。近い将来必ず起きると言われている、南海地震に備えるため、学校・地域が一体となった防災への取り組みが必要です。



《緊急時の避難について》

- ★第1次避難場所は運動場としています。
- ★校舎は『収容避難場所』に指定されていますので、校舎の安全が確保されましたら、校内で待機します。
- ★校舎の裏山が土砂災害等により校舎が危険と判断した場合は、第2次避難場所の旧保育園に避難します。
- ★いずれの場合も状況をみながら保護者の方に連絡を取りお迎えをお願いし、児童生徒の引き渡しをしていきますので、よろしくお願いします。



● 「生活科・合同総合学習発表会」平成26年11月29日（土）



平成26年11月29日（土）に開催した生活・合同総合学習発表会には、多くの保護者や地域の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。

生活科や総合学習は、自分たちの周囲にあることから課題を発見し、考え、判断したり、学び方や考え方を身につけたり、自分だけでは解決できないとき、他の人と協同して取り組んでいく力をつけていくことをねらいに実施しています。子どもたちにもそんな力が少しずつ育っています。

1. 開会 →はじめの言葉

2. 今年の発表会・合同総合について（児童会）

児童会では、「行川をもっと住みやすい地域にしよう」という大きな目標を設定しました。

テーマは、ほたるプロジェクトと命名し、全校児童・生徒が縦割り班で今回の学習発表会に向けて学校全体で取り組んだことについての説明と、発表会の流れについての説明がありました。

3. 生活科の発表 →昔遊びに挑戦（小学1・2年生）

全員で高原会の方々から習った①こま遊び②けんだま③おじゃみをしながら歌（もしもし亀よ）を元気に歌うなど、堂々と表現しました。



4. 生徒会活動紹介

今年の児童会・生徒会活動テーマ →「生徒の力で学校を変える」

①あいさつ運動（毎週火曜・木曜日に生徒会・児童会合同で実施）

みんなのおかげで現在は多くの児童・生徒も参加し、学校昇降口・消防屯所前で「おはようございます」の元気なあいさつが聞こえています。

②なかよし公園の清掃（6月・10月）

定期的に児童会・生徒会・ボランティア児童生徒による清掃を実施しています。



5. 合同総合学習の取り組み

- ①ワンワン班 「ほたるが増える取り組み」 → リーフレット作成
- ②ニイハオ班 「新しい看板を作ろう」 → ほたるマップ作成
- ③トマト班 「ほたるが住みやすい環境を守る」 → アンケート調査
- ④NSTグループ班 「それいけ報道」 → 取材にもとづいた新聞づくり
- ⑤ご飯だよ班 「ここにほたるがいるよ」 → 看板づくり
- ⑥Vセブン班 「四苦八苦川にな」 → 川になの育て方の苦労を報告



6. おもてなしタイム・販売体験学習

- ①お茶と生姜の砂糖漬けを保護者・地域の皆様全員に振る舞う
- ②販売学習：学校の農園で収穫した野菜・さつまいもなどを販売



7. 閉会 →終わりの言葉



行川歴史発見〈7〉

今から三〇年ほど前に、有志の方々により行川にまつわる数々の方言民話や昔話を集めた「夜なべまっこう」という民話集が出版されています。その中から、今回は「行川本宮様」についての説話を紹介します。

行川本宮様のこと

行川の石本は地番で行川一番地から始まる。一番地の由来は聞いたことが無いものの、ここに行川の共有地があったことを考え合わせると、部落と深いかわりがあったように思われる。伝え聞いた話ではこの土地に昔、本宮大明神を祭るお社があったという。

このお宮は、十六村、鏡村、土佐山村などの近郷の多くの土地の人々の崇敬を集め、例祭はにぎやかに盛大に行われたとか。その後、この大明神の移転問題が起きた時、近隣の三つの村の人達は、その移転先をお互いの土地へと願い、激しい討論を日夜繰り返し、ついには大明神のご神体の奪い合いとなった。結局はご神体の上部は十六村へ、中ほどは鏡村へ、下部は土佐山村へとそれぞれに持って去ったという。

行川の人の持ち帰ったご神体は、一時柱谷の神田じんたに仮鎮座した。その後、行川の城山に地を定め神社を建立し本鎮座をされ、十六村及び近郷の里人の崇拝を集めることになった。

頃は江戸時代とも思われるが、明治維新の改革により、本宮神社と改称し、郷社として、その祭典も本格化された。ちなみに戦前戦中は氏子小学校の生徒の参拝もあり盛大に行われた。

昭和二九年行川八社河内神社に合祀されることになり社名も行川神社として行川字高原の麓の清浄の地に鎮座されることになった。



行川大好き

7



市原家が行川に住み始めて四度目の春がやってきました。

毎年、春が来るたびに行川に引越してきた日の夜の感動を思い出します。「なんて、静かな夜なんだ！」翌朝には、『ホー ホケキョー！』鶯の鳴き声が目覚まし！「なんて贅沢だ！」

当時、私達の家族は一宮の県道沿いに住んでいました。そこは、スーパーや銀行が近く、便利な所だったので、昼も夜も車の往来が激しく、排気ガスや騒音、振動があり、とても洗濯物を外に干したり、子どもを外で遊ばせたり出来る環境ではありませんでした。

そこで、家を建てることをきつかけに、家族みんなが笑って健康にのびのびと暮らせる環境を求めて、東は香美市の山北、西は土佐市の波介まで土地を探す期間が一年以上続きました。行川は広告の土地を見に来た時に始めて訪れました。

結局その土地は購入しなかったのですが、行川の環境がいつぱんに気に入ってしまい、行川に住んでいる職場の上司と地主さんのご厚意で、平成二三年の春、今の場所に新居を構えることが出来ました。

行川に住んでみると、子供たちは川遊びに山遊び、ミニズに力エール、蛇やタヌキといった、自然豊かな行



川で、元気いっぱい大きく育っていつてくれていると感じます。近所の方々も、とてもやさしく親切な方ばかりで、困った時は助けてくださり、いつも季節の野菜や果物を頂いたりしています。

また、行川は、街から近すぎず遠すぎないところが、他の場所には無い魅力だと思えます。

よく友人や職場の仲間に「家は行川」と言うと、山奥の田舎暮らしをイメージするよつで、「通勤大変やない?」「買い物困るがやない?」と言われますが、実際に遊びに来てもらうと、意外と街から近いことに驚いてくれます。

私たち自身も不便だと感じることは一度もなく、自転車通勤することも出来ますし、森商店もありません。この便利でも不便でもない丁度良い所に、自然豊かな環境と、人と人が繋がりがあえる心の豊かさがあるのが行川だと思えます。

最近、子ども達が「大きくなったら近くに家を建てたい。」と言ってくれるようになり、とても嬉しく思います。私たち家族は、行川が大好きです。

行川の皆さま、これからもご指導のほどよろしくお願ひします。

編集後記

◆そろそろ桜の便りが聞こえてくる頃に、一月、我が家には一足早く豆柴の「ハル」がやって来ました。幸せな春を運んでくれますように。(朝)

◆美しい自然と人々の豊かな心に包まれて、矢のような月日が流れました。この心地好い故郷で老体を励まししをふっています。(巖)

◆今年は何明けから調子が良くほぼ毎日ジョギングをし、この調子なら来年は龍馬マラソンかな、と思ったところ一月下旬にインフルエンザに罹り、その後は三月になるのになかなか回復せず：やはり年のせいかな?(利)

◆カラオケがなんだか下手になりました。只今老化の真っ最中！でも行川で暮らしていれば笑って毎日生きられる気がします。(多)

◆行川校に赴任して一年が過ぎようとしています。行川の伝統や人々の温もりを子ども達に伝えていくことが我々教師の仕事だと思えます。(小)

◆先日、城ヶ森の展望台から市内を一望しました。想像以上の絶景に感動！人の温かさや風景の素晴らしさなど、行川の良さを、もっと発信できるようにお手伝いができれば、と思えます。(知)

